

編集の基本方針に関わる検討

教育基本法第二条 第1～5号への対応

内容及び特色

該当の紙面

〈第1号〉

音楽に関する幅広い知識と技能を身に付け、豊かな情操を養うことをめざしているか。

- ▶ 曲想と音楽の構造、楽器の音色や響きと奏法との関わりを踏まえ、学びのねらいとポイントを明示し、器楽表現に関する知識や技能が身に付けられるよう適切に配慮されている。

〈第2号〉

音や音楽に対する個人の価値意識を尊重して、その能力を伸ばし創造性を養うことをめざしているか。

- ▶ 音楽を形づくっている要素とその働きとの関わりを的確に捉え、言語活動と関連する音楽に対する価値を考えたり、音楽的な見方・考え方に活用したりするなど、個人の価値意識を尊重し創造性が養われるよう適切に配慮されている。

〈第3号〉

音楽活動を通して自他の敬愛と協力を重じ、尊重する態度を養うことをめざしているか。

- ▶ 音楽に関する知識や技能を得たり、それらを生かして表現を工夫したりして、他者との交流やアンサンブル(小集団)の表現を工夫することから、自他の敬愛や協力を尊重する態度が養われるよう適切に配慮されている。

〈第4号〉

音楽で表現される生命の尊さや自然の大切さを理解し、尊重する態度を養うことをめざしているか。

- ▶ 音楽の背景となる我が国の美しい情景や作曲者の思いなどを理解し、歌唱教材とも関連を図りながら生命の尊さや自然の大切さを尊重する態度が養われるよう適切に配慮されている。

〈第5号〉

我が国や郷土の音楽文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国の音楽文化を尊重する態度を養うことをめざしているか。

- ▶ 我が国や郷土の音楽文化の理解を基盤にして、音楽表現の共通性や固有性から音楽の多様性を理解し、我が国や郷土の音楽文化、他国の音楽文化を尊重する態度が養われるよう適切に配慮されている。

中学器楽 各ページ



中央教育審議会答申における 学習内容の改善や充実への対応

内容及び特色

該当の紙面

1 「知識」及び「技能」に関する 指導内容の明確化への対応

- ▶ 旋律(フレーズ)の反復による「音楽の構造」が明確な楽曲を取り上げ、曲想を感じ取り楽しみながら表現できるように配慮されている。
- ▶ 各楽器の基本的な奏法が身に付けられるよう「学びのねらい」「学びのポイント」が明記され、身に付けた技能を生かして「まとめの曲」が表現できるよう工夫されている。

2 「共通事項」の指導内容の 改善への対応

- ▶ 「学びのねらい」には(共通事項)に基づく学習の目標や内容がわかりやすく示されていて、「音楽的な見方・考え方」としての活用も意識した紙面となっている。

3 言語活動の充実への対応

- ▶ 各楽器の学習は、基礎的な奏法を生かし他者と合わせて表現を工夫する多様な教材を掲載するとともに、感じ取ったことや考えたことを交流し表現を工夫することができるよう配慮されている。

4 器楽教材の選択の観点の 改善への対応

- ▶ 生活や社会において音楽が果たしている役割が感じ取れるものや、音楽文化への理解を深められるものを厳選し、多様な教材が選択できるよう工夫している。

5 我が国や郷土の 伝統音楽に関わる 指導の充実への対応

- ▶ 「吹く楽器：篠笛、尺八」「弾く楽器：箏(こと)、三味線」「打つ楽器：太鼓」の基本的奏法に関する内容を分かりやすく提示し、それぞれの楽器の唱歌を取り上げることで、我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、愛着を持つことができるよう工夫された紙面となっている。

リコーダー p.8-9



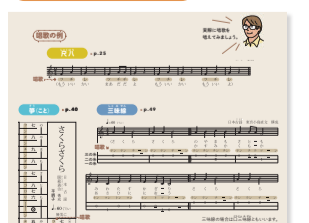
学びのポイント

- ▶ 曲の雰囲気を感じ取りながら演奏しよう。

各楽器のページ

- 篠笛 p.18-22
- 尺八 p.24-25
- 箏(こと) p.36-43
- 三味線 p.44-51
- 太鼓 p.54-59

唱歌について p.23



| 児童生徒の学習評価の在り方について(報告)に関する対応 | 内容及び特色 | 該当の紙面 |
|--|---|---|
| 1 カリキュラム・マネジメントと学習評価への対応 | <ul style="list-style-type: none"> ▶実践に即したカリキュラム・マネジメントを展開できるように、「演奏の仕方を身につけよう」を中核にして系統性ある編集となっている。 ▶「演奏の仕方を身につけよう」による学習と、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三観点による学習評価がバランスよく実施できるよう適切な取り扱いが可能な編集となっている。 | <p>演奏の仕方を身につけよう 各楽器のページ：p.4-59</p> |
| 2 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と学習評価への対応 | <ul style="list-style-type: none"> ▶主体的・対話的で深い学びを実現するために、「曲想と音楽の構造との関わり」を柱に学びのねらいやポイントを提示し、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三観点による学習評価をバランスよく実施できるよう工夫されている。 | <p>各楽器のページ</p> |

学習指導要領と関わる教材の選択・配列・範囲についての検討

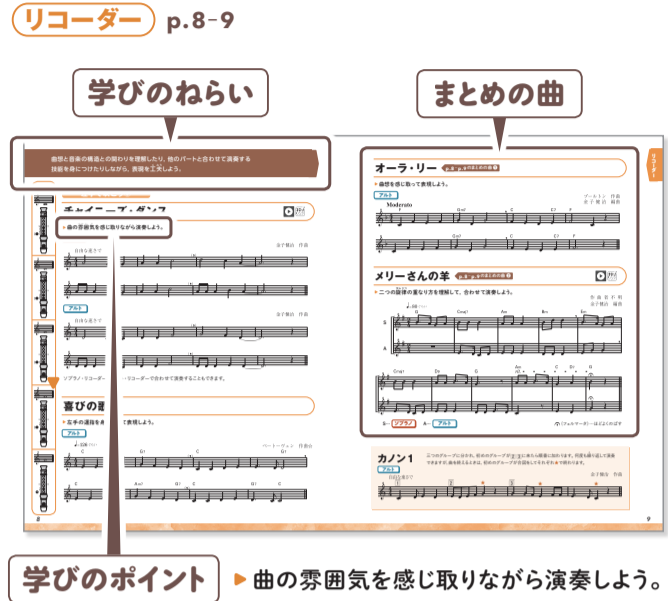
| 教材の選択・配列・範囲について | 内容及び特色 | 該当の紙面 |
|---|---|---|
| 1 音楽文化と主体的に関わる <ul style="list-style-type: none"> • 音や音楽と生活や社会との関わり • 我が国及び諸外国のさまざまな音楽 • 我が国と諸外国の音楽との関係性 • 音楽文化の継承、発展、創造を支えることへの理解 | <ul style="list-style-type: none"> ▶我が国や郷土の伝統音楽を基盤にして、音や音楽と生活や社会の関わり、それらと関わる音楽の特徴や多様性を取り扱うことができるように工夫された紙面となっている。 ▶我が国の音楽文化の継承、発展、創造に関わる若手の演奏家や、伝統音楽・芸能の担い手、後継者を紹介するなど、学校の実態に即した取り扱いと配慮がみられる紙面となっている。 | <p>リコーダー p.4-17 篠笛 p.18-22 尺八 p.24-25 ギター p.28-35 箏(こと) p.36-43 三味線 p.44-51 太鼓 p.54-59 合わせて演奏しよう p.60, 61, 70, 78, 80, 84, 86, 97</p> |
| 2 指導のねらいに照らして適切なもの <ul style="list-style-type: none"> • 生徒にとって親しみやすい音楽 • 生徒や学校の実態に応じた教材の選択 • 他者とともに一つの音楽表現をつくる過程の重視 | <ul style="list-style-type: none"> ▶教材は「曲想と音楽の構造との関わり」を基盤とした選択が意図され、基本的な奏法を身に付けられるように系統性ある配列となっていて、さらに生徒や学校の実態に応じて選択できるよう十分な工夫がなされている。 ▶歌唱・創作・鑑賞の各学習活動との関連にも配慮され、生徒や学校の実態を踏まえて取り扱うことができるように工夫されている。 | <p>各楽器のページ</p> |
| 3 我が国の文化や日本語の美しさ <ul style="list-style-type: none"> • 我が国の自然や四季の美しさを感じ取れるもの • 和楽器や口唱歌の取り扱い | <ul style="list-style-type: none"> ▶楽器で、自然や四季の美しさ、くらしと伝統的な行事と関わる歌詞をもつ歌唱教材(共通教材を含む)を表現することで、生徒がイメージを豊かにして取り組むことができるように工夫した紙面となっている。 ▶和楽器の特徴である多彩な旋律装飾と奏法との関連や、口唱歌と実際の表現との関わりを生かすなど工夫された紙面となっている。 | <p>歌唱教材との関連 p.10 うみ, p.14 浜辺の歌, p.20 たこたこあがれ, ひらいたひらいた, p.21 さくらさくら, p.22 子守歌, p.25 もういいかい, p.31 アニー・ローリー, Happy Birthday to You, p.40 さくらさくら, p.41 荒城の月, p.49 さくらさくら, p.60 もみじ, p.61 故郷, p.62 故郷の人々, p.64 カントリー・ロード, p.70 荒城の月, p.78 さくらさくら, p.80 こきりこ節, p.97 赤とんぼ</p> <p>口唱歌との関わり p.22 祭囃子, p.23 唱歌について, p.25 もういいかい, p.40 さくらさくら, p.47 開放弦の練習, p.49 さくらさくら, p.51 長唄「勸進帳」から寄せの合方, p.59 基本のリズムを打ってみよう, p.92 楽器と唱歌によるパッチワーク</p> |
| 4 音楽科の特質に応じた言語活動 <ul style="list-style-type: none"> • 音楽によって喚起された自己のイメージや感情 • 音楽表現に対する思いや意図 • 音楽に対する評価などを伝え合い共感する | <ul style="list-style-type: none"> ▶音楽から喚起されるイメージや雰囲気、感じ取った曲想について、音楽の構造と関わらせながら取り扱うよう工夫された紙面となっている。 ▶自分の音楽表現に対する思いや意図を他者との協働で生かし、音楽や演奏の面白さを考えながら表現を工夫できるように配慮されている | <p>各楽器のページ 「合わせて演奏しよう」のアンサンブル教材</p> |
| 5 音楽的な見方・考え方 <ul style="list-style-type: none"> • (共通事項)の取り扱い • 知覚したことと感受したこととの関わり | <ul style="list-style-type: none"> ▶音楽を形づくっている要素とその働きに着目し、知覚したことと感受したこととの関わりや「音楽的な見方・考え方」を活用できるよう工夫された紙面となっている。 | <p>各楽器のページ 「合わせて演奏しよう」のアンサンブル教材</p> |
| 6 道徳教育との関連 | <ul style="list-style-type: none"> ▶道徳教育との関連を重視し、音楽を愛好する心情、美しいものや崇高なものを尊重する態度の育成をめざし、我が国の自然や文化、日本語の美しさを感じ取れる教材を選択できるよう工夫された紙面となっている。 | <p>巻頭口絵 各楽器のページ 「合わせて演奏しよう」のアンサンブル教材</p> |

内容の取り扱いについて

具体的な観点及び内容

該当の紙面

- 1 指導事項や〔共通事項〕の取り扱い**
- ▶ 指導事項や〔共通事項〕に基づく「学びのねらい」を学習のまとめごとに明記するとともに、教材ごとに「学びのポイント」を示し身に付けたい「知識・技能」を分かりやすく提示している。
 - ▶ 「知識・技能」を身に付けながら表現を工夫することができるように「まとめの曲」を掲載し、「学びのねらい」に対する学習評価を意図するきめ細かい配慮がみられる。



基礎的な技能を身に付けるための指導の系統性・計画性

- 1 リコーダー**
- ▶ ソプラノ・リコーダーとアルト・リコーダーとの関係性に着目して「まなびリンク」で分かりやすく提示するとともに、小学校で取り扱ったソプラノ・リコーダーの学びを活用できるように配慮された紙面となっている。

- 2 篠笛**
- ▶ 音の出し方を写真や「まなびリンク」で分かりやすく提示し、基礎的な奏法を身に付けるとともに、「祭囃子」など生活や社会との関連を図った教材を掲載している。

- 3 尺八**
- ▶ 音の出し方を写真や「まなびリンク」で分かりやすく提示し、基礎的な奏法を身に付けるために親しみやすい楽曲を選択している。

- 4 ギター**
- ▶ 左手の使い方を写真や「まなびリンク」で分かりやすく提示するとともに、基本的な奏法が身に付けられるように配慮されている。

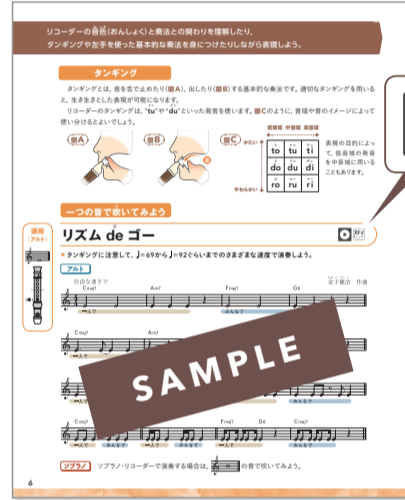
- 2 生活や社会との関わりを踏まえて、旋律を表現することやコードで伴奏すること、「タブ譜」の読み方を示すなど、十分に工夫された紙面となっている。**

- 5 箏(こと)**
- ▶ 右手の親指による基本的な奏法を、角爪(生田流)と丸爪(山田流)に分けて写真や「まなびリンク」で分かりやすく提示している。
 - ▶ 左手の奏法や口唱歌、縦譜(生田流)を示すなど、箏(こと)の音楽表現のよさを味わいながら表現を工夫することができるように配慮された紙面となっている。

- 6 三味線**
- ▶ 基本的な奏法(ばちの使い方)を写真や「まなびリンク」で分かりやすく提示するとともに、勘所や唱歌を用いて基本的な奏法が身に付けられるよう配慮された紙面となっている。

- 7 太鼓**
- ▶ かまえ方や打ち方について写真や「まなびリンク」で分かりやすく提示するとともに、我が国や郷土の伝統音楽に用いられるリズムを表現し、それらを組み合わせる表現を工夫することができるよう配慮されている。

リコーダー p.6



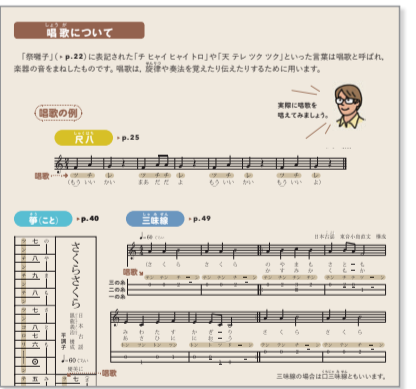
太鼓 p.56



箏(こと) p.40



唱歌について p.23



主体的・対話的で深い学びについて

- 3 「何が同じで、何が違う?」のページでは、これまで学習した楽器の音の出る仕組みや表現する旋律の特徴などに着目し、「聞いてみよう」「話し合おう」を活用して深い学びが展開できるよう工夫された紙面となっている。**
- ▶ 「吹く楽器」「弾く楽器」「打つ楽器」のまとめりで、我が国や諸外国の音楽文化の理解を意図した教材を提示し、主体的・対話的で深い学びが展開できるよう工夫された紙面の構成となっている。
 - ▶ 多様な楽器の組み合わせによるアンサンブル活動を多数掲載し、基本的な奏法を生かし他者との協働で表現を工夫することから、主体的・対話的な学びが展開できるよう工夫された紙面の構成となっている。
 - ▶ 「何が同じで、何が違う?」のページでは、これまで学習した楽器の音の出る仕組みや表現する旋律の特徴などに着目し、「聞いてみよう」「話し合おう」を活用して深い学びが展開できるよう工夫された紙面となっている。

何が同じで、何が違う? PART-1 p.26



学びを支えるカリキュラム・マネジメントについて

- ▶全体の構成は、「演奏の仕方を身につけよう」「合わせて演奏しよう」「名曲旋律集」の三群で構成し、カリキュラム・マネジメントに応じて柔軟に教材を選択できるよう工夫されている。
- ▶「演奏の仕方を身につけよう」は、「曲想と音楽の構造との関わり」を基盤とした教材を提示し、演奏に必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付けられるよう工夫された紙面となっている。
- ▶「合わせて演奏しよう」は、Let's Play! と Let's Try! と学習のねらいに即した多様なアンサンブル活動に取り組めるよう工夫されている。
- ▶和楽器を用いたアンサンブルや、「体で打楽器(ボディーパーカッション)」「音のスケッチ」など、表現と鑑賞の関連を図ることが可能な教材を多数掲載している。
- ▶「音楽的な見方・考え方」を活用し、「知識及び技能」を得たり生かしたりしながら、「思考力、判断力、表現力等」と関わらせて表現することを重視した編集となっている。

4

今日的な課題について

SDGs(持続可能な開発目標)との関連について

SDGs 17の目標のうち、「4. 教育」では質の高い学習を提供する紙面構成とカリキュラム・マネジメントへの提案、「5. ジェンダー」では男女平等にたった演奏者への配慮、「10. 不平等」ではそれぞれの国や地域の音楽文化を尊重した編集の方針、「16. 平和」では平和や公正を訴える教材を採用するなど、適切な編集となっている。

5

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



キャリア教育との関連について

生徒のキャリアに対する意識とつながるように、若手演奏家や伝統音楽・芸能の担い手や後継者などを積極的に登用した紙面となっている。

リコーダー：安藤由香、篠笛：福原邑佳、尺八：善養寺恵介、石垣征山、ギター：村治佳織、箏(こと)：黒川真理、佐久間杜和能、三味線：東音小島直文、東音山内美穂、太鼓：林英哲、田代誠、辻祐

6



特別支援教育との関連について

特別支援教育の専門家の監修を受け、学びに集中できるレイアウトや配色(カラーユニバーサルデザイン)、見やすく読みやすい文字(ユニバーサルフォント)など、細部にわたり配慮がなされている。これによって、誰にでも見やすく読みやすくわかりやすい紙面となるよう工夫している。

7

カラーユニバーサルデザインの取り組み

色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインを取り入れ、NPO法人CUDOの認証を受けています。



他の教科等の学習、小学校の学習との関連について

音楽の学習と、他の教科の学習との横断的な学習の実施について示唆される編集となっている。

8

- ・国語：歌唱共通教材における七五調の歌詞、歌舞伎(長唄)の取り扱い
- ・社会：歌舞伎の歴史的背景、地域のお祭りなどに関わる歴史的・地理的背景
- ・外国語：英語による歌詞と旋律の表現
- ・道徳：〔郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度〕〔我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度〕〔感動、畏敬の念〕などの学習との関連

印刷や造本について

判型はAB変型を採用し、カラーユニバーサルデザインによって文字、楽譜、写真、挿絵の見やすさに配慮している。また、学びのねらいやポイント、折り込みとなっている「ギター&キーボードコード表」「リコーダーの運指表」などの学習をサポートする工夫が見られる。再生紙、植物油インキ、グリーン電力を使用し、環境に配慮し、造本は堅牢で長期の使用に耐えられるとともに軽量化の工夫がなされ、用紙は耐用性の高い上質なものを使用している。



環境にやさしい再生紙と植物油インキを使用し、印刷にはバイオマスで発電されたグリーン電力が使われています

この資料は、一般社団法人教科書協会の「教科書発行者行動規範」に則っています。